

「文学」×「創造都市」でつくる持続可能なまち

開催日：令和6年11月6日（水） 会場：やまがたクリエイティブシティセンターQ1

ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）に映画分野で加盟している山形市は、毎年他の加盟都市と連携し創造都市の可能性や未来について考えるシンポジウム「やまがた創造都市国際会議」を行っています。

2024年のテーマは「文学」。文学分野でUCCNに加盟している岡山市、韓国・プチョン市の2都市と山形市から文学に精通したスペシャリストをゲストに迎え、それぞれの都市の活動事例を共有しながら、文学活動による創造性が持続可能な都市の発展にどのように貢献できるか、その可能性と重要性についてディスカッションを行いました。

【プログラム】

Part1 山形市、岡山市、韓国・プチョン市による事例紹介

Part2 パネルディスカッション

トークテーマ① 文学活動による新たな価値の創造

トークテーマ② 文学分野における産学官連携

トークテーマ③ 文学分野での創造都市の推進による持続可能なまちづくり

Part1 パネリストによる各都市の事例紹介



山形市立図書館ボランティア 運営委員長 井上 幸弘氏

山形市立図書館が行っている本のひろばや図書館ボランティアが行っている本の語り、読み聞かせなど、本の貸出だけではなく、より多くの人に本に触れる機会をつくりだすための取組みを行っています。



株式会社八文字屋 取締役副社長 五十嵐 勇大氏

八文字屋では、書籍の購入だけでなく、イベントや映画館との連携、オリジナル商品の開発も行っています。老舗書店だからこそ常に新しいことを起こすということを心がけています。



株式会社吉備人 代表取締役社長 山川 隆之氏

ユネスコ文学都市として、昨年から「おかやま文学フェスティバル」を開催、今年度から「うったて」という冊子を刊行しています。文学を一つのツールとして、人や他分野の文化をつなげ、岡山市を文学のまちとして盛り上げていくために、さらに創造都市事業を進めていきたいと思っています。



韓国・プチョン市 創造都市担当者 チョン・ソヨン氏

プチョン市は、韓国の工業化・経済成長を経て、映画やアニメ・漫画産業が発展した背景があり、文学分野においてユネスコ創造都市を目指すようになりました。ユネスコ文学創造都市として、プチョンレジデンス（滞在プログラム）やプチョン国際フォーラム、プチョンディアスポラ文学賞などの事業を行っています。

Part2 ディスカッション

文学分野での活動においてどのような産学官連携ができるか、そしてその連携が創造都市としての持続可能なまちづくりに、どのような影響を与えられるかについて話しました。

株式会社吉備人 代表取締役社長 山川 隆之 氏

岡山市では、図書館事業、市が主催している文学賞、古書店のイベントがこれまではそれぞれで行われていましたが、「本との出会いの場をつくる」という同じ目的のもとに連携し、さらに「文学によるまちづくり部会（※）」（※ 創造都市推進のための協議会）発案の新たな事業を加える形で2023年より「おかやま文学フェスティバル」を開催しています。このようなイベントから地元で新たな出版社や書店が生まれ、マーケット重視の本だけでなく、地元にゆかりのある本を、地元で出版し販売できるようなまちにしていくことで、持続可能なまちにしていきたいと思っています。

山形市立図書館ボランティア 運営委員長 井上 幸弘 氏

これまで地道に続けてきた図書館や図書館ボランティアの活動が、実は創造都市につながっていたのだと実感しています。山形市がユネスコ創造都市であることを意識、明示することで、市民にも創造都市というものを広めていきたいです。また、本を読むことは、自分で学び考える力を育み、自立した市民を育てることにつながっていると思います。図書館を通じて人と本を結びつける活動をより行っていかなければならないと思っています。

株式会社八文字屋 取締役副社長 五十嵐 勇大 氏

フランスのカルチャーパスのように、若者の文化活動を支援する仕組みを国が打ち出す例もあり、書店と市民を繋ぐような働きかけがあればいいと思います。また、教育分野との連携として、学校の授業で、教科書のほかに本1冊を読む機会を設けるなど、学生が本を読む機会を増やすことができれば、学生、特に中学生・高校生に読書の習慣をつけることができるようになるのではないかと思います。

また、スマホ・SNSが中心となっている現代であっても、リアルでのイベントや人とのつながりが重視されています。書店や図書館、行政のそれぞれのイベントは点であっても、それが線となり、さらに広がって波となることで大きな影響力を持つと思います。

韓国・プチョン市 創造都市担当者 チョン・ソヨン 氏

レジデンシー（滞在プログラム）事業は、海外から作家（ライター）などを招き入れ創作活動の支援を行う事業ですが、例えばフランスからのライターを迎えるときには、フランス語を勉強している大学生や高校生とのワークショップを開催するなど、交流の場を作っています。この交流が若年層へ影響をもたらし、持続可能なまちづくりにつながっています。このような交流は創造都市の事業でしかなしえない成果であります。

最後に、ファシリテーターで作家の黒木あるじ氏からは、「文学」というと作家が注目されがちだが、出版社や書店、図書館、そして読者がいて初めて成り立つ仕事であるため、お互いに連携し、創造都市と

して持続可能な発展を目指していきましょう、とお話ししていただきました。

ファシリテーター
黒木あるじ氏（作家）

